

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA



障がい者と共に
働く

障がい者と共に
拓く

大矢真那による取材 障がい者を応援

東京ムツミ会ファロ×大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

グラッパ東京×布施博

スポーツと障がい

日本障がい者サッカー連盟

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size／はじまり」

月刊メルディア
VOL.12

TAKE FREE

MELDIA

2018
DEC.

VOL.12

月刊メルディア 12月号 2018年10月25日発行 (毎月1回25日発行) 第12号 通巻12号
発行所/一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA
GROUP

同じ家は、つukらない。



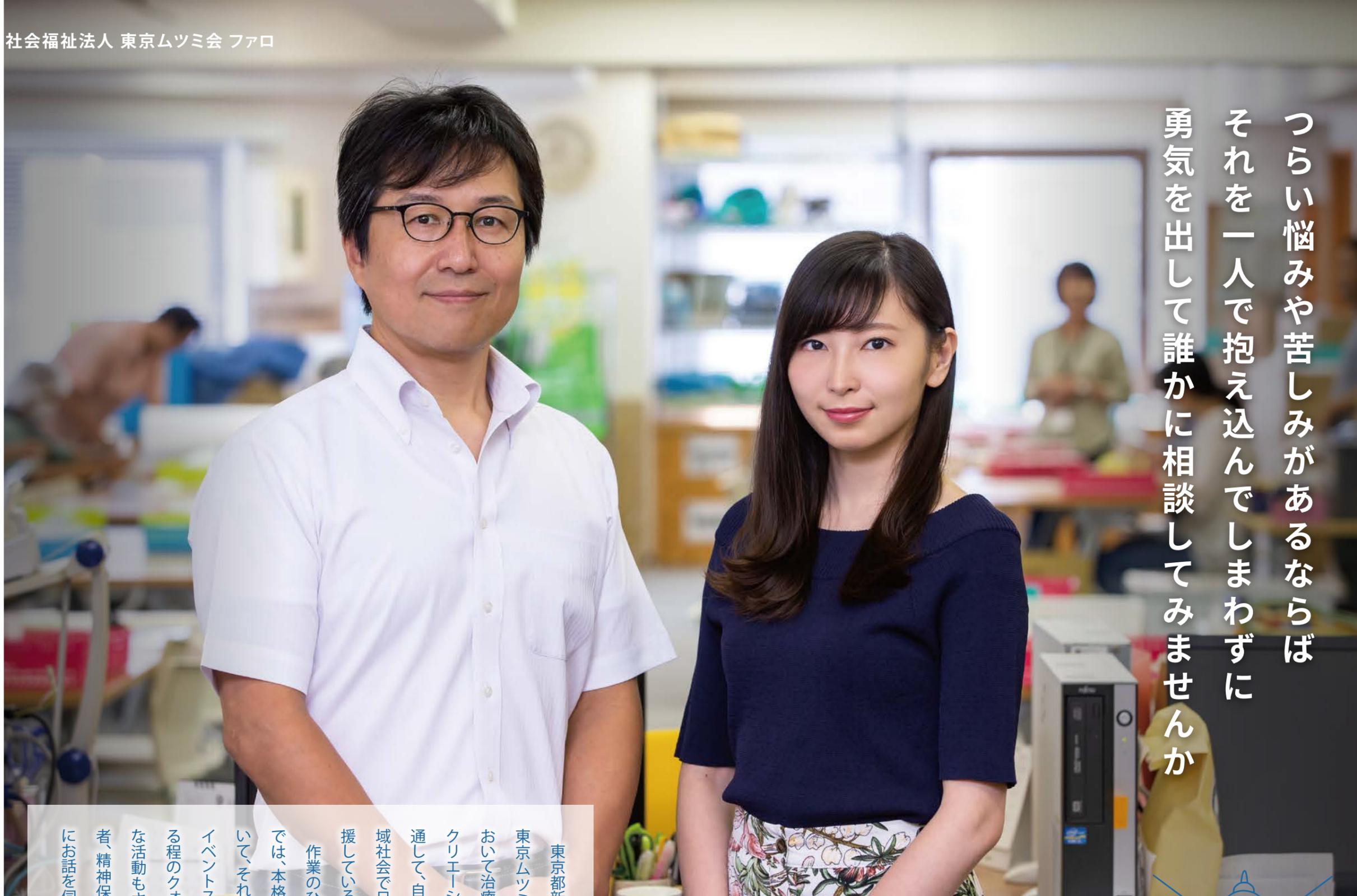
メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

25th
ANNIVERSARY

まだ25年、
これからのメルディア



つらい悩みや苦しみがあるならば
それを一人で抱え込んでしまわずに
勇気を出して誰かに相談してみませんか

東京都新宿区にある社会福祉法人
東京ムツミ会「ファロ」は、精神科に
おいて治療継続中の方々が作業やレ
クリエーションなどの様々な活動を
通して、自分の持つ能力を発揮し、地
域社会で日常生活を営めるように支
援している福祉事業所です。
作業のひとつである自主製品作り
では、本格的な七宝焼も製作されて
いて、それは有名ファッションビルの
イベントスペースなどにも出展され
る程のクオリティだといえます。そん
な活動もされている「ファロ」の管理
者、精神保健福祉士の徳堂泰作さん
にお話を伺いました。



人生に迷った時の道しるべ 社会復帰という名の航海へ

大矢 まず、「ファロ」という名前の由来をお聞かせください。
徳堂 スペイン語で「灯台」という意味です。
大矢 なぜ灯台という意味の名前を付けられたのでしょうか？

徳堂 灯台には「道しるべになる」という意味もあります。この施設が人生に迷われている方たちの道しるべとなって、そこからまた新たな航海へと出帆して欲しい、という意味を込めて命名しました。

大矢 素敵な由来なんですね。こちらは、どんな事をしてる施設ですか？

徳堂 精神障がいのある方たちの社会参加を支援している事業所です。地域で暮らす精神障がいのある方たちが、生活していくにはどうしたら良いのかを一緒に考えて実現をしていきますよ、というのが我々の目的です。

大矢 なるほど。こちらでは就労継続支援B型施設と地域活動支援センターの2つを運営されていますよね。

徳堂 就労継続支援B型の方は、「働くことを通して人との関わり方を学びましょう」というコンセプトになっています。地域活動支援センターの方も「人との関わりを学ぶ」をコンセプトにしていますが、こちらはレクリエーションを通して

様々な日中活動を通じて 明るさを取り戻す利用者たち

大矢 どのレクリエーションが人気ですか？

徳堂 聴いているだけで癒されるという意味で音楽鑑賞は人気です。あとは創作活動の絵画や七宝焼もそうですね。極力どの活動にも地域の方たちにボランティアとして関わっていただいて、交流を持てるようにしています。普段はあまり接することのない外部の方々と触れ合う事が、利用者さんにとって良い刺激になるので、それは大事な事ではないのかなと思います。

大矢 就労継続支援B型の方ではどのような作業をされていますか？

徳堂 新宿は印刷業や出版業が盛んな地域なので、それらの会社のダイレクトメールなどの封入や発送作業などを行っています。他には新宿区からの委託業務で、公園の清掃や花壇の植栽の管理や、防災広場や路上消火器の点検、区立看板の清掃などの作業もしています。

大矢 新宿は人が多いので、路上消火器の点検などは特に大変かもしれませんね。

徳堂 そうですね。特に歌舞伎町はうちの管轄エリアなので大変ですよ。たまに路上消火器が根っこから折れてたりすることもあって(笑)

大矢 えーっ!! 想像以上でした(笑)

徳堂 日本一の歓楽街ですからね。でもそういった場所を担っているというのが、皆の中で誇り



社会福祉法人 東京ムツミ会 ファロ
管理者/精神保健福祉士
徳堂 泰作
Taisaku Tokudo

大矢 真那
Masana Oya

して学んでいく感じになります。
大矢 レクリエーションはどんな事をされているんですか？

徳堂 曜日ごとに違う内容になっていて、創作活動や音楽鑑賞、料理、散歩など様々です。ちなみに今日は料理会の日で、簡単料理をテーマに皆で料理を作ります。

大矢 いいですね。今日は何をやるんですか？

徳堂 トマトソースを使ったスパゲティを作る予定です。レトルト食品や冷凍食品などもうまく取り入れながら、いかに簡単に、そして栄養のバランスが取れた食事を作れるか、というのを考えて皆で考えています。

大矢 献立は皆で考えるんですね。

徳堂 献立を決めるのも、買い物に行くという事も、一つの「トレーニング」として捉えています。月に一回は栄養士の方に来てもらって、きちんと栄養指導もしていただいています。

大矢 トレーニングの成果はどうですか？

徳堂 具体的な成果となると、なかなか難しいのですが、ご家族と同居されている利用者さんの中には、「今までお母さんに料理を作ってもらっただけだったけれど、ここで学んだものを自分で作ってあげる事が出来るようになった」という方もいます。今まで人まかせにしていた事が自分で出来るようになったという事が自信に繋がりが、それが身近な人や自身の生活にうまく活かせているのではないのかな、と思います。

大矢 なるほど。こちらに通われている通所者の方たちには変化は見られますか？

徳堂 最初は会話もままならないほど無口で、笑顔を見せない方もいらっしゃいました。ですが、ここで時間をかけて少しずつ人に慣れていくって、自身の持つ人間性や明るさを徐々に取り戻されていっている、といった変化が見られたりはしますね。

大矢 そういう変化があるとホッとしますよね。徳堂 やっていて良かったと思う瞬間です。我々の思うようにいかないこともありませんが、ご本人たちがどう思っている、どう変わっていくか、それが重要だと思うので、それに近づいているんだらうなと思えた時はとても嬉しいです。

大矢 思うようにいかない時もあるんですね。徳堂 皆さん色々な悩みを抱えていて、中には人には言えない問題を抱えている方もいらっしゃると思います。そういった方たちの苦しみや悩みを打ち明けて貰えるような存在に我々はなりたいのですが、その信頼関係を築く前に病状が悪化し、ここを辞めざるを得ない状況になってしまう人もいます。皆さんに幸せになって欲しいという思いが我々にはあるので、そういった時に力不足を感じますね。

大矢 まだ手助けが足りていないと？

徳堂 他の関係機関も含め、もっと連携を取ってやっていかなければならないと思いますね。

一般財団法人メルディア

MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある方を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は首都圏や中京エリアのイオングループとその系列店、イトーヨーカドーグループとその系列店、特別支援学校、障がい者支援施設等に配布しています。



04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2018年9月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対する支援を行っています。



ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰しも人生は一度しかないものです。

■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)
設立者 小池信三
設立日 2017年5月23日

01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにもご紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



05 サッカー観戦チケットプレゼント

「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と介添者の方、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。観戦チケットをご希望の方は巻末の「チケットプレゼント」のページに記載の要項をご覧ください。



障がい者を応援 社会福祉法人 東京ムツミ会 ファロ



テキパキと手際よく封入作業をこなす通所者さん



自分の中だけに問題を抱えず 時には誰かに助けを求める

大矢 今後の展望をお聞かせ下さい。
徳堂 まだまだ社会では精神障がい者に対する正しい理解が足りない部分があると思うので、理解を深めるという意味でも、当事者の方たち自身も自ら外に出て行けるような勇氣も必要なのだらうと思います。そこで、社会全体でそれを受け止めていく環境を作っていけたら良いなと思っています。
大矢 受け止めて貰える場所があるならと勇氣を出せるかもしれませんよね。
徳堂 そうですよ。あとは、精神疾患にならないための予防ですかね。そのためには教育がとても重要なと思うんです。学校でメンタルヘルスに関する教育を行うという動きが新宿区内でも少しずつ出て来ています。お子さんやご家族が、メンタルヘルスに関する正しい知識を持つというのは、予防という意味でもとても重要な事なのだろうと思います。
大矢 正しい知識を持つ事で、その予防にも繋がるといふことですね。
徳堂 今の時代、精神疾患になられる方がどんどん増えているのが現状ですからね。そういった方たちを増やさないためにはどうしたらいいか? というのを社会全体で考えねばならない、というのが大きな課題だと思います。



社会福祉法人東京ムツミ会ファロ
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-16-16
テアールカテリーナ3階
TEL / 03-3350-4437
http://www.mutumi.or.jp



取材・大矢真那

大矢 障がいのある方やそのご家族、本誌の読者にメッセージがあればお願いします。
徳堂 生きていく上で、人との繋がりはとても重要だと思います。何かが起こった時に、それを自分だけでどうにかしようとするのではなく、大変な時は誰かに助けを求めて構わないと思います。どうか独りで抱え込まずに、人生が楽しくなるように、誰かに助けを求めてください。
通所者の方たちが作られた七宝焼などの商品は、どれもオシャレで素敵なものばかりでした。きつとそんな商品作りからも、前向きな気持ちになっけていけるのではないのかなと思いました。とても考えさせられる取材でした。

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>





「敢えて就労支援施設と謳わず、普通のレストランとして営業」

布施 足立区は私の地元なのですが、障がい者施設が多いですよ。

楠原 はい。それに伴ってか、障がいのある人の数も東京の他の区より多いです。

布施 ここではどんな障がいのある人が働いているんですか？

楠原 身体、精神、知的とそれぞれいらっしゃいます。仕事に関しては各々が出来る事を割り振ってやってもらっています。

布施 就労訓練に当たって留意されていることは何ですか？

楠原 ここはレストランで、主にお客さまに

対する仕事なので挨拶を重視しています。従業員同士の挨拶でも、ただ「おはよう」だけではなく、褒め言葉をつけて行うようにしています。

布施 褒め言葉ですか？

楠原 「その三角巾かわいいね」とか「今日も男前だね」とか(笑)

布施 面白い！ 素敵だね。

楠原 知的障がいのある人などがそれをする、持ち前の明るさと相まって、周りが笑顔になるんですよ。

布施 その様子が想像できます。私もこの冊子の取材で色んなところを回ってきました。

たが、皆さんが一緒に「彼らは明るい」と言いますね。

楠原 でも、お客様の中には障がいのある人を受け入れられないという方もおられます。

布施 その辺りはやっぱり大変ですか。

楠原 障がいがある分、どうしても業務に時間が掛かってしまうことがあって、時にはお客様をお待たせしてしまうこともあります。

布施 難しいんだなあ。

楠原 そうですね。どこの事業所でも周囲の認知というのが、大きな壁になっていると思います。「グラッパ東京」は創業からちょうど5年ですが、認知を得てお店が回るようになるまでに4年かかりました。

布施 4年。認めてもらうというのは時間が



布施博
Hiroshi Fuse

株式会社てっぱん
障害福祉サービス事業所 のんの
特定相談
支援員 楠原公代
Kimiyo Nanbara

掛かるんですよ。

楠原 実は、ここが就労支援の事業所だと、大々的には触れ回っていないんです。

布施 そうなんですか。それはなぜですか？

楠原 就労中は障がい者マークもつけていません。一見では障がい者だとは解りませんから、お客様から理解を得られない場面も以前にはありました。それでも、今では常連になつてくれた方も沢山いらっしゃいます。お店自体を気に入ってもらえているのだと思っています。

布施 それは良かった。

楠原 ここは平日の昼間しかやっていないのですが、最近は土日や夜も営業して欲しいという声まで頂くようになりました。



布施博が訊く Grappa Tokyo

東京都足立区



布施博の出身地でもある東京都足立区。この地で就労継続支援A型事業所でもあるイタリアンレストランの「グラッパ東京」取材した。

今回、「布施博が訊く」の取材に応じて頂いたのは、同店の運営母体である「障がい福祉サービス事業所・のんの(株式会社てっぱん)」に特定相談支援員として在籍する楠原公代さん。楠原さんも布施と同じく足立区の出身だという。他の地区に比して障がい者福祉施設が多いという同区内で育った2人の対談は、和気藹々とした地元話から始まったかに見えたが、お互いの実感が籠った熱い対話へと趣を移した。



「普通の人だから発信しない」
「目から鱗の意見に激しく同意」

布施 今の障がいを取り巻く環境について、何か思うところはありますか？

楠原 この近所の公園で目の不自由な人がベンチに座っていただけで警察に通報されてしまったことがあります。視力が弱い人と、子供など「動くもの」を自然に目で追ってしまふことがあるので、変質者と勘違いされたそうです。そういったことがあると残念だと感じます。

布施 なるほど。

楠原 そういったことが起こってしまう理由は、その人が「慣れていないものを拒絶してしまっ



ランチの時間帯には手作りのお弁当やお惣菜の販売も行なっている。

布施 土日や夜は営業しないんですか？

楠原 はい。要望通りに営業をしようとして、勤務形態をシフト制にせざるを得ません。

布施 シフト制にするとか何の問題か？

楠原 例えば、ある従業員がいない間に業務が進んでしまつとします。そうすると、その従業員が次に勤務した時に店内の様子、椅子やテーブルの位置が変わつていたり、調理に使う食材の量が変わっていることもあり得るんですね。そういうことだけでも、障がいの種類によっては業務に支障を来たす可能性があるからです。

布施 そっか。そんなところまで考えてやっていると、でも、そんな色々なケアも行っているのに就労



施設だとは敢えて謳っていないんですね。その理由はなぜですか？

楠原 私も、最初は障がいのある人の能力や素晴らしさを発信していきたいと強く思っていました。でも、彼らとの付き合いが長くなって、今ではそういう気持ちは全く失せました。

布施 それはどつして？

楠原 彼らは私たちと同じ普通の生活をしているだけですから。普通の生活をしている人をわざわざ宣伝なんかしないですよ。

布施 ああ、それは初めての認識だった。確かに一理あるよね。私もずっと疑問に思っていることがあるんですよ。「障がい」という括りが果たして本当に必要なかどうか？ って。

楠原 背の小さい人は高い場所にあるものを取

ているから」という、それだけだと思っんです。それでは物事を穿った目で見ているだけに過ぎません。

布施 そんな自覚を各々が持つだけで、何かが変わるかもしれませんね。

楠原 あともう一つ、障がいへの理解に関しては地域によって物凄く差があります。東京23区だけを見てもそうです。そういう「地域差」や「格差」のようなものは早急に改善していくべきだと強く思います。

布施 そんなに違うんですか。

楠原 全く違います。事業所の数などを見れば、それこそ一目瞭然です。

布施 それは改善して欲しいよね。



れないので、背の高い人に頼みますよね。また逆も然りなことも多くあります。みんなそうやって生きています。他にも、石を加工する仕事など、凄いな音がする場所では、聴覚に障がいのある人が活躍している例もあります。

布施 特性や個性に合った仕事もあるよね。

楠原 障がいのある人たちは感覚が本当に鋭いんです。天気予報を見なくても、雨が降る日は傘を持っていく程です。情報で動く私たちと違って、感覚で動く彼らは、私たちとは違う部分がいっぺりと磨かれていくからです。障がいのある無しではなく、誰でも出来る事と出来ない事があって当たり前。それが「普通」なんです。



グラッパ東京
東京都足立区保木間1-1-3
TEL / 03-5851-7291
<http://nonno-teppan.com/>



「障がいの魅力」を発信していくつもりはありません。なぜなら彼らは普通の生活を送る普通の人間なのですから」

楠原さんのこの言葉、「目から鱗が落ちる」というか、逆説的で面白い意見だと思った。

楠原さんには失礼かもしれないが、彼女が「発信していくつもりはない」と言っなら、その代わりには俺が楠原さんのことはもちろん、障がいの者をもっと発信して行こうと思った。

——俺が小さかった頃の足立区からの変貌ぶりに改めて驚いているさなか、面白い意見を聞くことができた。



株式会社マジエルカ 代表取締役 **藤本 光浩**
Mitsuhiko Fujimoto

「障がい者の製品」ではなく「価値のあるもの」を販売

鷺坂 「マジエルカ」という店名がとても印象的だったので、どういう意味なんですか？
藤本 実はダジャレになっていて、「混ぜる」が語源なんですよ。
鷺坂 そうだったんですか。なぜ「混ぜる」といった意味の名前を付けたのですか？
藤本 東日本大震災の影響で自然が崩壊した時に、「植樹によって土地を復興させよう」という活動をされていた林業家の方がおられたんです。今の日本の森林はヒノキやスギなどを植樹した人工林が殆どなのですが、古来からの自然林の姿というのは雑木などの様々な



セレクトショップ・マジエルカ

(株式会社マジエルカ) 東京都武蔵野市



木々が混在しているのが本来の姿である、との方が提唱されていたんですね。自然林は人工林と比べて震災の時でも地崩れしなかったりと、「非常に強い」というのが証明されています。だから、人工林ではあるけれど、敢えて元の自然の雑木も入れて、混在させるという活動をしているのを知って、それを人間の世界に準えても面白いなと思ったんですよ。障がいのある人というのは、社会において「ちよっとスタンダードから外れた存在」だとされがちですが、むしろ多種な個性が混ざった社会の方が、色んな木々が混ざった自然林が強いのだと同じように、社会としての力を持つのではないかなと思っただけです。
鷺坂 意味が深いですね。
藤本 その林業家の方が「混ぜる」というのを訛りで「まじえる」と言っているのを聞き、それをもじって「マジエルカ」としました。
鷺坂 マジエルカさんの運営開始時期と活動内容を教えてください。
藤本 約7年前に障がい者施設で作られている雑貨製品の販売を始めました。
鷺坂 藤本さんが、それらの製品を販売しようと思っただけですか？
藤本 私自身、ここ以前に福祉施設などで働いた経験は無く、民間企業で商品の企画や販売、それに伴った営業をしていました。その中で、ある企画のバイヤーとして集めた商品が、



「バイヤーも驚く素敵なものばかりです！」
「お店の商品全て障がいのある人が作ったとは驚きました！」

きっかけは、「良いと思ったものがたまたま障がい者の作品だった」こと。支援してあげるという気持ちではなく「一つの価値」として商品を提案する。

東京都武蔵野市にある人気の雑貨店「マジエルカ」。店内に所狭しと陳列されている数々の商品は、その全てが障がいのある方たちの手によって作られたものだという。それらのどの商品も、それが製作されるまでのストーリーやモチーフを客側に想像させるのに十分な魅力を内包している。これほど素敵な「作品」を産み出す才能と個性は、障がいのある無しには関係ないと言わざるを得ない状況を作り出し、それが障がいのある方たちに対する意識や先入観を軽く超えていく。そんな、新しい価値を発信し続ける「株式会社マジエルカ」の代表取締役である藤本光浩さんにお話を伺った。



MELDIA GROUP 三栄建築設計 一般財団法人メルディア 事務局 **鷺坂 浩章**
Hiroaki Sagisaka

福祉施設で作られたものだと思っただけです。それまでの私は、障がいのある人たちがこれほど商品価値の高いものを作っているという事実を全く知らなかったもので、まず驚きがありました。そんな私にとって、障がいのある人たちがきちんとしたものを作っているというのが衝撃的で、それが世間に知られていないのがすごく勿体ないと思っただけです。それは、単なる「支援してあげたい」という気持ちではなくて、「一つの価値として世の中に受け入れて貰える商品になるのでは？」という事で始めてみました。
鷺坂 「新しい価値」を見付けたんですね。
藤本 世の中の人々がまだ知らない価値を「発見した」という気持ちで、興奮しました。



驚坂 障がい者スタッフへの指導などはどのようになされていますか？

藤本 私たちは障がい者スタッフを「戦力」として期待しています。ただ、それは私たちにしてみれば、結構本気の期待であって、期待度も高いので障がい者スタッフにとっては厳しいと感じることもあるのではないかと思います。

驚坂 「一人の人間として期待している」という事ですね。

藤本 はい。マジエルカの中で通用する仕事というより、ここ以外の場所でもきちんと通用するようになって欲しい、という所に重きを置いて指導をしています。

驚坂 なるほど。その指導は大変そうですね。

藤本 「無理しないでいいよ」、「マイペースでいいよ」と言っておいた方が私たちも障がい者スタッフも楽なんでしょうが、根気よく指導するよう努めています。

驚坂 厳しい指導に対する反応は？

藤本 中には、(就労が)続かなかった方もいましたね。後で考えると、その原因の一つは我々の経験不足と失敗のせいでもあって、「あの時、もう少し目を掛けてあげられたかも?」と思う事もありました。

驚坂 指導方法を再考することもあった、と。

藤本 でも、ある障がい者スタッフが、「マジエルカでは私を一人前の人として扱ってくれる」と言ってくれたことがあったんです。また、「こ

障がい者への理解に繋がるおしゃれな雑貨屋という入口

驚坂 障がいのある人たちが作った商品だという事を知ったお客さんの反応はどうですか？

藤本 掛けて頂く言葉で嬉しいのは「良い買い物をした」とか「それなら更に大切にしたい」というものです。でも、やはり障がいのある人たちが作っていることを知ると、皆さん一様に驚かれます。店内にある商品の全部がそうだと伝えると、更に驚かれますね。私がそうだったように知らない人の方が圧倒的に多いので、その間口を広げて入口を作っておけるといいのがマジエルカの使命だと思っています。

驚坂 理解への入口にもなっているんですね。

藤本 そうですね。理解が足りない、障がいのある人たちと「なるべく関わらないようにしよう」とか思ってしまうのがリアルな現実だと思います。ですが、マジエルカに置いてある商品は障がいのある人たちが作っているんです、彼らはこんな素敵なものを作れる人たちなんですってというのを知って貰えたとしたら、見方が絶対変わると思うんです。

驚坂 そうですね。その意識の変化は小さいようですごく大きなものだと思います。

藤本 たまたま入った雑貨屋で、たまたま気に入って買ったものをきっかけにして、そこから少しでも見方が変わる、ということがあっても



障がい者による独創的な商品が映える店内は、その見せ方にも拘りを感じる。デザインはもちろん質も高く、誰かに教えたいくなる店舗だ。

良いと思うんですね。そういうハードルの下げ方というか、意識を変える、意識する、というだけでも関わり方が変わると思っています。

驚坂 昨年からの就労継続支援A型事業も始められたと伺いましたが？

藤本 はい。まだA型にして1年なので試行錯誤の連続ですが、障がい者スタッフにはショップの方で接客や商品管理、発注などという、これまで私たちがずっとやってきた事のほぼ全部を任せるようにしています。

驚坂 健常者と同じ仕事内容なんですね。

藤本 うちは精神疾患や発達障がいの方が殆どです。そういう方たちに向いている・向いていない仕事の情報というのは沢山あって、「向いていない」仕事の中には接客が必ずあります。それと、臨機応変な対応が必要とされる仕事も「向いていない」とされていますが、マジエルカでの仕事は真逆で、全部その「向いていない」と言われる仕事ですから、私たちも障がい者スタッフも、とっても大変です。

驚坂 そうなんですね。

藤本 ですから、障がい者スタッフには事前に先ほどのような話をして、「それでも良いの?」という確認をしてから働いて貰っています。いざ働いてみたら、想像以上に大変だったようですが、「例え大変でも自分のやりたい仕事をした」という方が多く働いている、という感じの就労継続支援A型事業所になります。

ここでは一人の人間として認めてくれている」という意見の方もいましたね。

驚坂 それは素敵なお見事です。では最後に、今後の課題や展望があればお願いします。

藤本 障がい者雇用は企業にとって無視ができない問題になっていて、「障がい者雇用率の達成」が課題とされていますよね。「障がいのある人の法定雇用率を達成する」ということだけに主眼を置いた単なる支援的な「CSR(※1)」を行うのではなく、「CSV(※2)」的な考え方で、例えば、ギフトやノベルティの商品企画を担わせるなど、障がいのある人たちの仕事を事業活動の中に取り入れることを更に広げていけないだろうか、と考えています。



株式会社マジエルカ
東京都武蔵野市吉祥寺本町3-3-11 中田ビル1F・B1F
TEL / 0422-27-1623
<http://majerca.shop-pro.jp/>



※1 / 企業が社会的&道義的にも果たすべき責任。企業は社会的に奉仕する存在であるべきという考え方。
※2 / 企業が本業を通じて企業の利益と社会的課題の解決を両立させることによって社会貢献を目指すという経営理念。



はじまり

水越けいこ連載

12



シンガーソングライター 水越けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と公演活動を続けている。

一日一日を大切にしたい 息子と私との朝の「はじまり」

この連載を始めてから、早くも一年が経とうとしています。これを読んで頂いている読者の方たちと、執筆の機会を頂いた一般財団法人メルディアの方たちに感謝しています。

ダウン症を持つ息子・麗良（れいら）と私の朝は、7時に鳴る目覚まし時計の音から始まります。2人ともシャキッ！とは起きられませんが、まったりと身体を起こし、互いに「おはよう」と静かに挨拶を交わします。

そして、すぐに歯磨きと洗顔を済ませた後2人共言葉を交わす余裕もなく、それぞれの身支度を黙々とこなしていきます。

息子は髭剃り、着替え、日誌の記入をし、私の両親の写真の前にお水を替えてから、自

分と私の分のお茶を用意してくれます。

今では当たり前前の光景となっていますが、息子がまだ小さい頃は、今のように自分で自身の身支度出来るようになるとは思っていませんでしたから、嬉しい限りです。

私は朝食作りとお弁当作り、それを終えると、やっと朝食を食べている息子の向かいの椅子に座り、お茶を飲みながら言葉を交わします。「今日はどんな予定だったかな？」とか、息子からは「今日はお仕事で遅いの？」などと、その日の互いの状況を聞き合ったりします。

きつと、どこのご家庭も同じだと思いますが、朝の時間というのはバタバタと瞬間に過ぎてしまいます。そんな中でも、私はお茶を飲みながら、「今日は欠伸も多いし、目の下にクマがある。少し疲れ気味かな？」とか、「今日は顔色が良くて元気いっぱい！」などと、息子の様子

就労移行支援事業所に通う 息子の就労について思うこと

息子は今、「就労移行支援事業所（障がいのある人たちが職に就けるように訓練する事業所）」に通っています。初夏の頃からずっと「クールビズ」のためノーネクタイで過ごせましたが、今は苦手なネクタイをきちんと締めて、毎朝元気に出掛けて行きます。

事業所では日々、色々な作業を教えて頂いており、研修という形で実際に現場に出て働くこともあります。現在、息子は都内にあるパン屋さんに通って2日ほど研修に行っています。研修は、午前中からお昼過ぎまでと短い時間ですが、息子はそこで大いに刺激を受けているようで、

その日に起きた「嬉しかった事」や「大変だった事」を私に話してくれます。

事業所では、研修の他に就労に向けてのマネーや心得などの講習もあります。そうしながら、正式な就労に繋がるよう、職員の方たちが努力してくれています。しかし、現実はなかなか厳しいようで、息子も未だ就労には至っていません。

例えば、私自身も「この仕事は自分には向いていない気がする」と思い悩んだ事がありました。私はかつて、テレビ局と金融機関の2つの職場を経験しました。今の仕事に就いたのは、3度目の選択でした。世間では、一旦就職しながらも転職をする方が多いように、息子にしてみても、きつと向き・不向きがあるんだろうなと考えています。

その一方、息子はダウン症を持っていますから、仕事の要領、体力共に、健常の方より劣っている部分がある事も解っています。だから、反面では「就職出来るだけありがたいので、仕事を選んでいる余地はない」という気持ちもあります。息子本人が「この仕事に就きたい！」と教えてくれれば、何かヒントにもなるのですが、まだ息子なりに解らないことも多いらしく、明確な目標は出来ていないようです。

事業所に通い始めた頃は、人が沢山いる場所が苦手なようでした。でも、徐々に慣れてきて、「机で静かに作業するのが好き」と言っていた

を毎朝きちんと観察します。

もう26歳になった息子は、幼い頃からみると比べものにならないくらい元気になりました。それでもやはり、息子の体調の変化だけは注意して観察しています。

ですから、息子と私だけで過ごす朝の時間は、2人にとっては重要で、とても大切な瞬間になっています。もし、この時間に息子の様子に不安材料があれば、私はその日の予定を変更などして、息子の健康を第一にと努めています。

毎朝の恒例となった母の厳しいチェック（笑）に合格した日の息子は、最後に腕時計を嵌め、携帯を持って、笑顔で「行ってきます！」と出かけて行くことができます。

勿論私も息子以上の笑顔で「行ってらっしゃい！」と返します。こんなに当たり前で普通の日常が私には大切に愛しくなりません。

かと思えば、先のパン屋さんでの研修では「接客するのが楽しい」と言ったりと、考えも色々と変化してしまうので、時には息子の心理を分析するのに悩んでしまうこともあります。

少し前の事です。息子に、こう聞いてみたことがあります。「就職してお金を貰ったら何をしたい？」と。この質問に息子は、「ママを沖繩旅行に連れていきたい」と即答しました。私はその時、さすがに涙が零れそうになりました。

息子の本当の夢、それは実は「歌手になること」のようなのですが、今のところちょっと難しそうです。



水越けいこ「僕の手紙」絶賛発売中！



サッカーなら、障害も超えられる。

サッカーを通じた共生社会づくりを考える 日本障がい者サッカー連盟が サロンを開催



2016年4月1日に設立された一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 (JIFF、北澤豪・会長)は、2018年8月29日に「サッカーを通じた共生社会づくりについて考えるサロン」を開催した。会場となった日本サッカー協会 (JFA)には、スポーツを応援する企業、スポーツ大会運営組織、スポーツ界といった各方面からの関係者と一般募集の参加者が集い、連盟と障がい者サッカーの現状と、これを取り巻く社会や今後の課題などについて様々な意見と話題が交わされた。

連盟発足から約2年と数か月 徐々に環境は整いつつある

サロンはJIFFの専務理事兼事務総長の松田薫二さんによって全体進行が行われる中、まず最初に北澤会長による挨拶が始まった。
「連盟設立から3年目を迎えて、みなさんのご協力により一緒に活動して頂く中で、もちろん大変なこともありましたが、ただ、社会自体が少し変わってきたのではないかと思っています」

北澤会長が障がい者サッカーと最初に関わったのは、02年に知的障がい者サッカーの世界大会で日本代表のテクニカルアドバイザーを務めてからのこと。長きにわたる活動の中で、確実に障がい者サッカーを巡る環境が広がってきたことを実感したが上でのこうした発言なのだろう。

そして北澤会長は、大きな前進の一つとして、17年6月29日に行われた統一ユニフォームの制定を挙げる。障がい者サッカーでは障がいごとに7つの競技団体があり、カテゴリーに応じた13の日本代表チームがあるが、この日、日本サッカー代表と同じ「サムライブルー」で統一されたユニフォームが採用されることに決まったのだ。これで、障がいの種類は言わずに、健常者も障がい者も関係ない一つのユニフォームの下、各選手が文字通り「日本代表」として戦

されてきたが、各団体を繋ぐ中間支援組織として16年に連盟が設立された。さらに連盟は日本サッカーの総本山であるJFAに加盟するので、これで障がい者サッカーも日本サッカー界のピラミッド構造の中に正式に組み込まれたことになる。
松田さんの活動報告では、こうした障がい者サッカーの概況から、昨年度までの活動の様子などが述べられた。
また会場では、松田さんの説明と共に、それぞれの団体の競技風景が映像として映されたが、これが実に面白い。最近ではパラリンピックを含め、いろいろな競技の障がい者スポーツの試合風景をテレビで見る機会が増えたが、これと



一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
会長 北澤 豪さん

「最初に連盟会長の北澤豪さんが登壇、
「徐々に環境は整いつつある」と、
サロン開催にあたってのメッセージ・スピーチを行った。」

うことになったのだ。

さらに、サロン開催の直前に女子サッカーの20歳以下代表がワールドカップで優勝を果たしたこと、6月にロシアで行われたワールドカップで男子フル代表がベスト16にまで残り、躍進したことを踏まえつつ、「それぞれの団体の、やはり男子だけでなく女子も平等にやれる環境を社会として取り組んでいくということもしなければいけないのではと思っています」と、「そうした喜べるものをみなさんと今日のサロンの中でお話ししながら、実現へと向かえるようにご協力頂けたらと思います」と、最終的な目標である、サッカーを通じた共生社会づくり

について語り、挨拶を終えた。

そして第一部として、松田さんによる連盟の活動報告、ろう者サッカー日本代表の仲井健人さんによる選手としての活動報告が行われた。
と、サロンの中身に踏み込む前に、障がい者サッカーとはいかなるものかについて説明が必要だろう。

前述のように、障がい者サッカーは障がい別以下に以下の7つの競技団体(協会、連盟)がある。
①切断障がい、②脳性麻痺、③精神障がい、④知的障がい、⑤電動車いす、⑥視覚障がい、⑦聴覚障がい
これら団体はそれぞれに多くの企業や協賛者で成り立ってきたので、別個の組織として運営



一般財団法人 日本障がい者サッカー連盟
東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス内
TEL / 03-3818-2031 (平日13:00~17:00)
<http://www.jiff.football/>





デフサッカー・フットサル日本代表候補 仲井 健人さん



一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 専務理事兼事務総長 松田 薫二さん



一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 山本 康太さん



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会 小島 武志さん



横浜マリノス株式会社 望月 選さん



東京海上日動火災保険株式会社 鈴木 恵子さん



同様、見ているだけで面白いのだ。たまたま何かの部分で健常者の運動機能とは違いがあるというだけで、むしろ各障がいのある人たちがそれぞれの特質を生かし、サッカーの場合だとゴールするという目標に向かって競い合っている。あまり目にしたことがない競技でも、そこにはまた独自の楽しさがあるのだということが感じられる。

実際に競技者として障がい者サッカーに取り組んでいる選手の仲井さんが登壇し、生の声が届けられた。障がい者のスポーツについて、少しずつ環境が整いつつある一方、とりわけ金銭的な問題や、競技生活と実生活の両立がなかなか図りにくい現実があることが述べられた。

また、松田さんからは18年度の事業計画についての報告もあった。大きなものとしては、新たな2つの制度の策定が挙げられた。

一つは「手話通訳補助制度」で、JFAとその傘下にある全ての協会が主催する指導者および審判員の養成講習会において、知覚障がい者が不便なく受講できるように、主催者に対して手話通訳費用を補助するというものだ。この制度が定まることで、知覚障がい者のスポーツ参画の機会がまた一つ広がるはずだ。

もう一つは「JIFF指導者登録制度」だ。JFAは17年度からサッカー関連の有資格者向けの研修会に障がい者サッカーのコースを導入している。これに合わせてJIFFでは研修

会修了者に登録証を発行する。これにより障がい者・者がサッカーの指導を受ける環境を整備しようというものだ。

これ以外にも様々な活動や計画が報告された。もちろん、それら全ても最終的にはJIFFが理念として掲げている「サッカーを通じて共生社会の実現」のための試みとして行われていることになる。

様々な立場の垣根を越えて 草の根的に広がる必要がある

第2部では、現場で障がい者サッカーを支える各方面を代表する3者によるパネルディスカッションが行われた。

司会は日本ブラインドサッカー協会の部長で、連盟の理事も務める山本康太さんが務めた。パネリストは、東京海上日動火災保険のCSR(企業の社会的責任)室長として、20年に向けたスポーツ支援活動を行っている鈴木恵子さんと東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会の小島武志さん、元日産自動車のサッカー選手で現在は横浜マリノスで知的障がい者サッカーチーム運営を行うふれあい事業部長を務める望月選さんだ。つまり、支援企業と大会運営組織、競技者組織の立場から障がい者サッカーを支えている3者による現場報告と意見交換という形だ。ここでは、各現場の現状とそこで抱える

思いなどが縷々話された。

そして、サロン終了後は懇親会が開かれ、残った参加者が個々に交流を深め合う場面がそこにはあった。もちろん、本誌を発行する一般財団法人メルディアのスタッフもこれに参加。まずは名刺交換から始まり、あらゆる立場の人たちと言葉を交わすことが出来た。

そもそも16年4月1日に連盟が発足したのも、14年5月にJFAが「JFAグラスツール宣言」を行った延長線としてある。「グラスツール」とは、「草の根運動」という意味だ。JFAとしてはこれを宣言することで、『誰もがいつでもどこでも』サッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めるべく取り組んで来た。となれば、障がい者も宣言通りにサッカーを楽しめる環境が整っていなければならぬ。当然の要請として連盟が発足したということになる。

だが、サロン開催の冒頭で松田さんは、「最初は計画も予算も無いような状態で出発しました」と述べていた。しかし、連盟が発足して約2年と半年弱、連盟の活動やこの日サロンに参加した個々別々の協賛者の努力、そして共生社会の実現に向かい始めた社会全体の変化もあって、北澤会長が述べたように、障がい者サッカーを取り囲む環境は変わってきている。この日のサロンは、社会が徐々にではあるが確実に変わってきているであろうことを窺わせるものだった。

つむぐ

〜こえをきく〜

TSU・MU・GU

「つむぐ」の連載も12回目。

丸一年、障がいのある人たちと関わってきて、私が感じたものを総括します。思うところがありすぎて、とても全てをまとめ切ることは出来ませんが、私が今までの取材を通して一番伝えたいことは何かと考えたら、それはたった一つでした。

文 渡邊 希望 俳優・脚本家・演出家



1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ここ1年で3本の脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。

努力や才能を正当に評価する 必要なものは「興味と理解」

「つむぐ」は障がいのある人と私が実際に話をしてみようという企画です。対談相手と他愛もない話をし、双方の間に生まれた「何か」を私の言葉で文章にしてつむぐ。

約1年前。私が本誌での連載を打診された時に、「自分には障がいについての知識が足りない」という理由で、引き受けるのを躊躇したのが最初の記憶です。

「つむぐ」の記事を書くために初めての対談をしたのは、歌手・水越けいこさんのご子息「レイくん」でした。その対談が始まってから暫く、私はレイくんを怖がらせない事だけに必死で、上手くコミュニケーションを取れなかった事も良く覚えています。

その時は水越さんに「レイには何でも聞いて」とアドバイスを貰い、レイくんの明るさに励まされ、最終的に私は楽しい対談の時間を過しました。

それ以降も、私は「不慣れながら頑張る」といった様相を隠せないまま、色々な方と対談をしました。しかし、私にとっては、そのどれもが楽しい時間でした。

それは、対談した方々が、いつも私に勇気くれたからです。私が何度も抱いていた「コミュ

ニケーションをちゃんと取れるか」、「ちゃんと記事を書けるか」といった不安は、いつも一瞬で対談相手が吹き飛ばしてくれたからでした。連載を初めて半年も経った頃、もう私にはそんな不安を抱くことはありませんでした。初めて会う方と対談するのが楽しみで、取材の日を心待ちにしていた程です。

「つむぐ」を初めて1年。私には「成長できた」と確信していることが一つあります。それは、「障がいがある人の持つ世界観には魅力がある」と自信を持って言えるようになったことです。

「障がい者」と「健常者」という線引きは、簡単に言えば「現代社会に適応することが難しいかどうか」です。

当然、社会で生活していても障がいのある人とは出会う機会は少なくなり、世間の障害への理解も進歩しづらい構造になっています。

さらに、現代社会では「効率化」を美德とする考えが根深く存在し、障がいがある人の社会貢献はより一層、難しくなっているという状況です。

しかし、逆に考えるとうどうでしょう。効率化は素晴らしいことですが、それが全てではありません。この一点のみを取り払って考えてみると、健常者と障がい者の違いはどこにあるでしょうか。

私は今まで本記事を書いてきた中で、いつも対談相手に救われてきました。屈託のない笑顔

や裏表の無い言葉は、いつも私を励ましてくれました。

それは、障がいを持つ彼らだからこそ出来たことであることは疑いようありません。これは、間違いなく彼らの持つ魅力なのです。そしてそれは生まれついたものだけではありません。彼らが自分の出来る事を努力し続けてきたその成果です。

那須で活動するアーティストのみなさんは、自身の描いた美しい絵を見せてくれて、私たちは朗らかに笑い合いました。

足利のココファームワイナリーでスタッフとして働く山田さんは、笑顔で仕事の楽しさを語り、次にやってみたい仕事の話などをしてくれて会話が盛り上がりました。

パン屋で働く美知香さんは、私に「正義感がないと疲れる」と教えてくれました。また、私の記事を心から喜んでくれました。

例を挙げればキリがありません。私は本誌に携わって、障がいのある彼らの魅力が社会の在り方によって正当に評価されない事が「悔しい」と感じるようになりました。

一人でも多くの人に、障がいのある彼らの世界観に触れてみて頂きたい。魅力を感じる人が必ず、沢山います。それが、一年「つむぐ」を書いてきた今の私の本心です。

つむぐ

〜こえをきく〜

「つむぐ」のプロフィールにもあるように、普段、私は脚本を書いています。ご覧いただいた方もいるかもしれませんが、本冊子メルディアが始まった当初のこの企画は、障がいがある人との対談をもとに、私が短い物語を「つむぐ」というものでした。今回、総括を踏まえて短編小説を書きました。ほとんど同じ内容の話が中国の思想書「莊子」にも載っていますが、私の抱いた感覚ととても近いものだったので、似ているのを承知で物語をつむぎました。「今あるものしか体験することは出来ない」。そんな思いも込めて書きましたので、是非お読みいただけたらと思います。

渡邊 希望



ムヨウノ木

ある山があった。そこには、沢山の木が立っていた。その木々は、みんなヒトのことが大好きだった。木々は人間の役に立つために、長い年月をかけ、様々な個性を持っていった。

ある木は大きな葉っぱを繁らせる木に。またある木は固く強い幹を持つ木に。またある木は芳しい香りを放つ木に。

その中に、葉っぱもみすぼらしく、幹も弱く、香りも悪い木があった。その木は、ただただ大きな木だった。そして成長も早かった。木々はその木を嫌がった。「これではヒトが寄り付かない」と。ヒトもまた、その木をムヨウノ木と名付けた。

ムヨウノ木がヒトにその名で呼ばれるようになって、他の木々はムヨウノ木をより嫌うようになった。

「なぜムヨウノ木は居るんだ」、「あの木のせいで日陰が増えて僕らはうまく育てない」と木々たちは罵った。そして、ヒトが本当に来なくなつた。更に、日照りが続き、木々に必要な水が不足し始めた。ムヨウノ木

は、他の木々に「どうしてくれる」、「お前のせいだ」と、とても怒られた。「ムヨウノ木の存在は大切な水分が無駄遣いだ」、「すぐ育つから僕たちが窮屈だ」とも言われた。他の木々がムヨウノ木の悪口を言うようになって、今まで何も言わなかった木々も悪口を言うようになった。

「ヒトが来て燃やしてしまえばいいんだ」、「斬り倒してしまえばいいんだ」。

ムヨウノ木は自分の事が嫌いになった。自分では腐ることも倒れることも出来ず、ただ自分の終わりが来るのを待ち続けた。そして、ムヨウノ木は崩れ落ちた。

あれからどれくらいが経ったのか、ムヨウノ木は目を覚ますと、小さなムヨウノ木としてまた同じ場所に生えていた。朽ちたムヨウノ木を苗床に、同じムヨウノ木としてまた生えてきたのだ。それを見た他の木々はまた悪口を言った。

ある夜、その山にヒトが訪れた。

木々にとって久しぶりな人間の訪れだった。木々はとても喜んだ。そのヒトは山を見渡すと、まだ小さいムヨウノ木を見つけた。

そのヒトは、何も言わずに、焚火を起こし始めた。雨が降らずに干からびて、火の付きやすそうな数本の枝を拾い、順番に火をつけた。なかなか火はつかなかったが、ムヨウノ木の枝にはすぐに火がついた。そのヒトは初めて言葉を発した。「スカスカの木だ」。

それを聞いた木々たちは、一斉にまたムヨウノ木の悪口を言った。しかし人間はこう続けた。「便利だな」。途端に、木々たちはムヨウノ木の悪口を止めた。

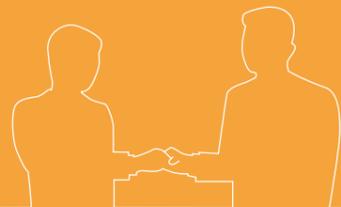
次の日の朝。まだ山にいたそのヒトが目覚ますと、ムヨウノ木が見えるほどに大きくなっていった。驚いた顔でそのヒトはムヨウノ木を見つめた後、何かが閃いた顔へと表情が変わった。そして、小さなムヨウノ木を掘り起こし、背負って帰った。ムヨウノ木は背負われていた間、疑問を抱き続けた。「なぜ自

分を持って帰るのだろうか」と。そのヒトが村に着いたのは、7日後だった。ムヨウノ木は「ヒトの住む場所から山までこんなに遠いのか」と思っていると、そのヒトは集まった沢山の村人にこう告げた。

「この木は少ない水分で大きく育つ。ここから山までの道のりはとても過酷だ。その道のりにこの木を植えれば道標になるし、何より木陰ができる。今のように日照りが続いてもあの山に行ける。幹は強くないがその分、乾燥させれば火おこしの道具としても役に立つ。香りは良いが、この香りは虫を遠ざけるぞ。これでまたあの山に行ける！」

ムヨウノ木は山までの道中に点々と植えられ、長い道のりの人助けが出来るようになった。ムヨウノ木は幸せだった。

山の木々もヒトが戻ってきてとても喜び、そしてムヨウノ木の噂を聞いた。木々はムヨウノ木に心から感謝したが、もう山にいないムヨウノ木には届かなかった。



弁護士が教える「障がい者と法律」

シリーズ

障がい者の雇用問題③



表参道パートナーズ法律事務所
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

世間を騒がせた水増し問題 「雇用義務制度」とは何か？

今年に入って、各都府県や地方自治体等の公的機関で、障がいのある人の雇用人数を増やしたという衝撃的なニュースが出ました。このニュースを聞いて、皆さま大変驚かれたことと思います。それでは、法律上はどのような問題なのでしょう。

今回は、この問題の背景となった、いわゆる雇用義務制度の概要をお話します。
障害者雇用促進法は、民間企業や国・地方公共団体に対して、法律で定める雇用率（以下「法定雇用率」といいます）以上の障がいのある人の雇用を義務付けています。これが、雇用義務制度の重

要な柱となっている規定です。

そして、法定雇用率は、平成30年4月から、

- 1 民間企業は2・2%
- 2 国や地方公共団体は2・5%
- 3

となっています。

民間企業の2・2%を例にとると、45・5人に1人の割合で障がいのある人を雇用する義務があるということになります。

この雇用義務は、組織の大小にかかわらず全ての組織に課せられます。

もっとも、法定雇用率を乗じて得た人数が1人未満の場合は切り捨てとされていることから、従業員数が45・5人以下の民間企業は事実上雇用義務が課せられません。

ちなみに、法定雇用率は少なくとも5年ごとに

を替えていない人も雇用率の算定の基礎とする雇用者数に数えていたということがあげられています。

確かに、雇用義務制度における雇用率の算定の基礎となる障がい者には、障害者手帳を持っていることが必要であることは法律上明記されていません。

もっとも、厚生労働省が、通達により、雇用率に算入する障がい者か否かの確認は障害者手帳か医師の診断書で行うとしているのです。

この通達による取扱いを怠っていたということが、上記の雇用者数の誤りの原因の一つと考えられるようです。



雇用義務制度のもう一つの柱 「障害者雇用納付金制度」

雇用義務制度には、雇用義務を達成できない事業主から納付金を徴収し、雇用義務を超えて障がいのある人を雇用する事業主に調整金を支払うという、「障害者雇用納付金制度」があります。

障がいのある人を雇用するためには、合理的な

見直されることになっており、21年4月1日まで

に、民間企業は2・3%、国や地方公共団体は2・6%へと引き上げられる予定です。

さて、厚生労働省は、平成29年6月1日時点の障がいのある人の雇用状況として、国の行政機関全体で障がいのある人の人数は6867人、雇用率は2・49%と公表していました。

しかし、今年8月28日に、再点検の結果、雇用者数を3407人、雇用率を1・19%だったことを公表しました。

再点検前は現在の法定雇用率とほとんど同じという計算になります。しかし、再点検後の正しい計算では、法定雇用率の半分程度だということになります。

なぜこのようなことが起きてしまったのでしょうか。

報道によれば、原因の一つとして、障害者手帳

1人につき月額2万1千円の報奨金が支払われます。

今回は、雇用義務制度をざっくりとお話しました。本来はもっと複雑な制度なのですが、まずは概要を知ることが、専門家でない方にとっては有用だと思います。

雇用義務制度は、企業に障がいのある人を採用するように求めています。障がいのある人の採用手続や採用基準、採用後の取扱いについては言及していません。

一方、前々回お話しした差別禁止規定は、募集や採用時、採用後の各段階で障がいのある人に対する差別を禁止していますが、企業に採用を強制するものではありません。

雇用義務制度と差別禁止規定は、障がいのある人の雇用を促進する上で相互補完的な関係にある重要な制度です。

ぜひ多くの方に制度の概要だけでも理解して頂ければと思います。



表参道パートナーズ法律事務所
東京都港区南青山4-17-33 グランカーサ南青山101
TEL..031680413718



<http://omt-partners.jp/>

募集&告知

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



イベント情報&店舗情報など

障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報または各種の告知を掲載しています。

Event

一般財団法人メルディアが贈る「クリスマス MELDIA Cafe」開催



一般財団法人メルディアが贈る「クリスマスMELDIA Cafe」が開催されます。本冊子の連載でもお馴染みのシンガーソングライター・水越けいこさんによる講演とライブ、協力企業や協力団体などによるカフェイベントなども同時開催の予定です。

■日時

2018年12月22日(土) ※予定

■場所

東京都文京区西片1-17-3/BXホール(文化シャッター本社ビル2F)

■イベント内容

水越けいこによる講演&ライブ/協力企業&団体によるカフェイベント ※予定

■イベント詳細

時間詳細、参加方法、参加条件などについては「一般財団法人メルディア」のサイトへ <https://meldia.org/>

募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ごとや告知などをP27の情報ページに無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
一般財団法人メルディア 事務局/担当: 後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか) 宛て
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



Restaurant

イタリアンレストラン「グラッパ東京」



■場所

東京都足立区保木間1-1-3 東潤ビル1F
TEL: 03-6677-2976

■営業時間

11:00~14:00 / 17:00~20:30(L.O)

■定休日

日曜・祝日

■アクセス

東武スカイツリーライン・竹ノ塚駅東口ロータリー交番前より北千住駅行きバスで栗山医院前下車。国道4号線・竹ノ塚3丁目交差点角(保木間公園の斜め前)



お便り募集!

あなたが知りたいことを
あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思います。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。



一般財団法人
MELDIA

■障がい者を雇用する(雇用予定を含む)企業、団体、各種の養護施設や福祉法人・団体の催事やイベントなどの情報掲載を希望される場合は、一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。 ■本誌の設置協力を頂いている企業や団体による設置前の「事前審査」により、掲載が不可能な場合もあります。掲載ガイドラインや記事のフォーマット等に関しましては一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。



湘南ベルマーレ

ホームゲーム観戦チケットプレゼント



©湘南ベルマーレ

療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳をお持ち
の方と、介添者の方1
名を湘南ベルマーレ
ホームゲームに抽選で
ご招待いたします！

■ホームゲーム一覧

開催日	キックオフ	対戦相手	申込〆切
11/24 (土)	14:00	浦和レッズ	11/10(土)

■応募から観戦までのステップ

STEP 1 応募
HPの応募フォームへ
必要事項をご入力



応募フォーム
はこちら

<https://meldia.org/privacy/ticket/>

ホームページからも応募できます
財団 メルディア 検索

STEP 2 メール
応募完了メールが
届いたら受付完了

ドメイン指定をしている方
は「org@gf-meldia.com」
を指定メールアドレスに追
加してください。応募後、
5日経っても応募完了メ
ールが届かない場合は恐れ入
りますが下記お問い合わせ
先までお電話くださいませ
ようお願いいたします。

STEP 3 抽選
当選者へチケットを
お送りします

当選者の方へ当選メール
を送信後、応募フォーム
にご入力頂いたご住所宛
にチケットをお送りいた
します。
当選発表はメールの送付
をもってかえさせていただきます。

STEP 4 観戦
スタジアムへGO！

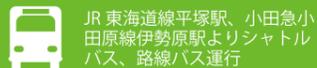
チケットに記載のゲート
よりご入場ください。
どうぞ観戦をお楽しみ
ください！



※当財団はチケットプレゼントのみ提供いたします。試合当日のご案内はいたしかねますので予めご了承ください。なお、会場
内で生じたトラブル等に関しては一切の責任を負いません。あわせてご了承ください。

ACCESS

Shonan BMW スタジアム平塚へのアクセス 詳細は湘南ベルマーレ HPをご覧ください



JR 東海道線平塚駅、小田急小
田原線伊勢原駅よりシャトル
バス、路線バス運行



圏央道寒川I.C.より湘南銀
河大橋、国道129号線経由で
約15分(国道129号線に随時
「総合公園へ」の看板あり)

駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

■お問い合わせ先■

一般財団法人メルディア 事務局 担当：後藤・鷺坂
TEL 03-5381-3213 受付時間▶月曜日～金曜日 9:30～18:30

※抽選結果に関するお問合せにつきましてはお答えしかねますので
ご了承くださいませ。

12 MELDIA CONTENTS 2018 DEC.

- 01| 障がい者を応援
社会福祉法人 東京ムツミ会 ファロ
- 06| 一般財団法人メルディアとは？
メルディアの基本理念、支援事業、財団概要
- 07| 布施博が訊く
グラッパ東京/障害福祉サービス事業所ののの
- 11| 就労継続支援事業所訪問
セレクトショップ・マジエルカ
- 15| 水越けいこ連載「M size / はじまり」
水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る
- 17| 日本障がい者サッカー連盟
サッカーを通じた共生社会づくりを考えるサロンを取材
- 21| つむぐ〜こえをきく〜
脚本家・渡邊希望が障がい者の「声」を聞く
- 25| 弁護士が教える「障がい者と法律」
表参道パートナーズ法律事務所/弁護士・安部晃平
- 27| イベント情報と店舗情報・その他
障がい者が働く施設や団体の情報・店舗情報など
- 28| 募集と告知
取材先募集と協賛の募集など

MELDIA12月号 2018年10月25日発行
発行元 / 一般財団法人メルディア事務局
発行人 / 小池信三
事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章
編集 / 株式会社サン・オフィス
編集人 / 東宮恵美
編集長 / 山口慎市
進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝巨介(新村印刷)
編集部 / 東宮恵美、都筑亮太、村田保則、渡邊希望
ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平、
山口慎市、渡邊希望、横関寿寛、大橋はるか
カメラマン / 吉岡晋(PMJ)
ヘアメイク / 鳥取まりこ
デザイン / 有限会社フレッシュ・アド
印刷製本 / 株式会社オフセット
協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、
社会福祉法人 東京ムツミ会 ファロ、
障害福祉サービス事業所ののの、
グラッパ東京、一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟、
株式会社マジエルカ、表参道パートナーズ法律事務所、
株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、
株式会社PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます
2018©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア&月刊メルディア
MELDIA GROUP 三栄建築設計/サン・オフィス



次号予告
MELDIA VOL.13
2018年11月25日
発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 32F
一般財団法人メルディア 事務局
TEL: 03-5381-3213
MAIL: org@gf-meldia.com